

# 神戸市西区竹の台地区の防災の取り組み

竹の台地区防災・防犯福祉コミュニティ会長  
神戸クロスロード研究会 浜 尚美

## 概要

神戸市西区の西神ニュータウンに位置する竹の台地区では、「竹の台地域委員会」を中心に住民自治活動を行っています。1999年、この組織の防災・防犯部会として「竹の台地区防災・防犯福祉コミュニティ」が設立されました。2014年度からは竹の台5カ年計画の方針『家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災対策が図れるまちをつくる』に基づき、地区防災計画の策定・一斉避難訓練の実施・親子向け防災イベントなどを行っています。また、西神中央地域では6つの防災福祉コミュニティが連絡会を作り、市民防災リーダー研修や合同防災訓練を行っています。防災活動だけでなく、普段の地域活動の中で、住民同士が集まり、交流し、顔を合わせて話や相談ができる場を作ることにより、安心して住み続けられるまち、イザと言う時に命を守れるまちを目指しています。

## 1. 神戸市西区竹の台地区の概要

神戸市西区竹の台地区は、三宮から神戸市営地下鉄で約30分、西神中央駅の南西約5km四方の竹の台小学校の校区域です。

神戸市が開発した西神ニュータウンに位置しており、竹の台への入居は1985年に始まりました。令和元年10月の人口は8,955人、世帯数は3838戸、15歳未満人口は1,089人、75歳以上人口は1,182人です。

駅の周辺は地区センターとなっており、百貨店や専門店街などの商業施設、区役所出張所やハローワークなどの公共施設、医療機関があります。駅から徒歩15分の近隣センター「たけのプラザ」には、スーパーや理容美容施設があり、その周辺には郵便局、認定こども園、小中学校などがあります。駅前には高層マンション、他は概ね戸建て住宅となっています。公園も多く（7つ）、歩道も広く車道と分離しており、計画的に整備された街並みによって、安全で快適に生活することができます。

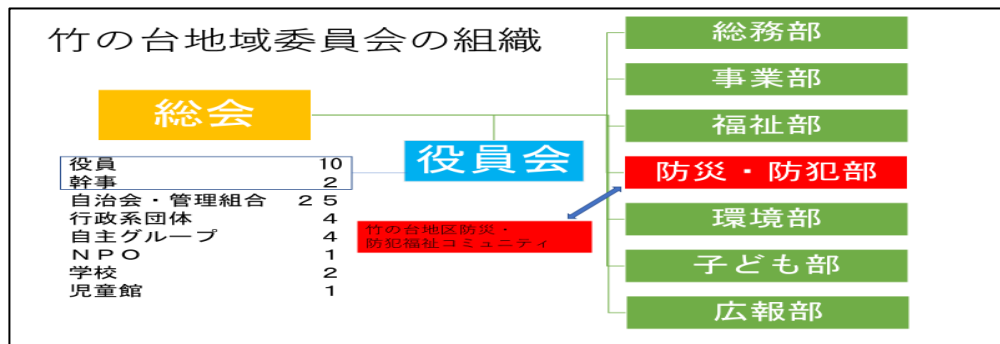
平成7年、阪神・淡路大震災の時には、一部断水や停電は見られたものの倒壊家屋等はなく、被災した親戚・知人・友人を一時的に受け入れていた、という家も多くなりました。その後公園や空き地に仮設住宅が建設されました。



## 2. 竹の台地域委員会について

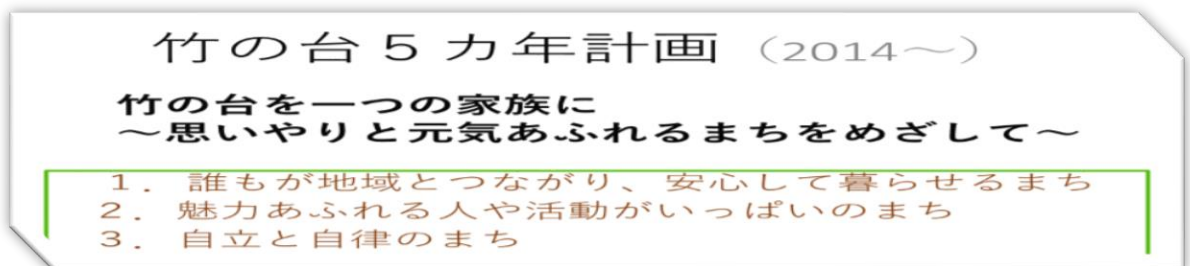
竹の台には、5つの戸建て自治会・2つの市営住宅自治会・6つのマンション管理組合・12の戸建て住宅管理組合（管理会）の、25の住民自治組織があります。これに加えて、老人会や青少年育成協議会等の行政系団体、NPO等で構成されているのが、「竹の台地域委員会」です。

竹の台地域委員会は、神戸市の条例で規定された、小学校区単位で福祉と交流を行う「ふれあいのまちづくり協議会」をベースに自治機能を加え、2010年に設立されました。7つの部会があり、それぞれの部会長が竹の台地域委員会の役員となっています。



## 3. 竹の台の地域活動の特徴

竹の台の地域活動の特徴は、2014年に策定された「竹の台5カ年計画」をベースに事業を展開していることです。（2019年からは第2次5カ年計画）。



竹の台5カ年計画は、「少子化」「高齢化」「防災」「防犯」「住民自治」「交流」「生活環境」の7項目から成り、それぞれの項目で「方針」と「具体的な取り組み」を定めています。

「防災」分野の方針・取り組みについては次の通りですが、直接的な防災活動だけでなく、住民同士が集まり、話し合い、交流したりする場の全てが、地域防災力の向上につながるという考えのもと、活動を行っています。

### 5. 防災

方針：家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災対策が図れるまちをつくる

- (1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災計画を策定し、それに基づく訓練や、施設・設備・備蓄等の整備を行なう。
- (2) 災害時に、住民同士で助けあえる力をつける。特に、高齢者をはじめとする災害時要援護者を住民同士でケアできる体制をつくる。
- (3) 1家族1名の市民救命士習得を実現する。

## 4. 竹の台地区防災・防犯福祉コミュニティ

神戸市は、阪神・淡路大震災の経験を教訓に、各小学校区単位で、住民自主防災組織「防災福祉コミュニティ（通称「防コミ」）」を設置しています。竹の台では1999年に

設立され、竹の台地域委員会の「防災・防犯部」に位置づけられています。現在 10 名の役員と約 30 名の委員で構成されており、「竹の台 5 カ年計画」に基づき、次のような活動を行っています。

- ①竹の台地区防災計画の策定
- ②一斉避難訓練
- ③西神 NT6 地区防コミ連絡会
- ④市民救命士の養成
- ⑤学校園の防災教育支援
- ⑥親子向け防災イベントの開催

### 竹の台イメージキャラクター「タケくん」



## 5. 竹の台地区防災計画の策定プロセス

竹の台 5 カ年計画「(1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災計画を策定し、それに基づく訓練や、施設・設備・備蓄等の整備を行なう」に基づき、まず、竹の台全体の防災計画を策定することにしました。

### ① 2014 年度 発災～避難所に行くまでのマニュアル作り

発災から避難所に行くまでのマニュアル「竹の台おたすけガイド」を策定しました。これに先立ち、既に避難所運営マニュアルの作成を行っていた京都市の事例や、西神ニュータウンで起こりうる自然災害の話講師を招いてお聞きし、マニュアル策定の参考にしました。

このマニュアルでは、地震などが発生した場合、まずは自分の身を守り、その後は近隣～自治会・管理組合単位で声をかけあい、その場にいる人たちで役割分担し、安否確認や救助救出を行うこととしています。

	実施日	内 容	参加人数
1	7月20日 (日)	学習会(1) 「京都市における避難所運営マニュアル策定の実際について」 京都市東山区役所 樋口係長	30名
2	9月21日 (日)	学習会(2) 「西神ニュータウンで想定される自然災害について」 明石工業高等専門学校 特命教授 太田 敏一 氏 神戸市消防局予防課 谷輪係長	34名
3	11月9日 (日)	避難マニュアル(おたすけガイド)作成 ワークショップ(1) 神戸市消防局予防課・神戸西消防署 ・丁目ごとに分かれ、地図を使って、危険個所の洗い出し	34名
4	2月8日 (日)	避難マニュアル(おたすけガイド)作成 ワークショップ(2) ・図上訓練	30名
		合計	128名

### ② 2015 年度 避難所運営マニュアルづくり

避難所に避難した住民の健康や安全を守り、災害関連しを防ぐことも大切な地域活動の一つです。そこで、避難マニュアルに続き、避難所運営マニュアルを策定しました。避難所となる小学校の校長・教頭にも話し合いに入っていただき、避難所に必要な機能・スペース・運営組織等について協議しました。

	実施日	内 容	参加者
1	2015年 7月26日 (日)	1. 災害時要援護者への対応について（西区保健福祉課） 2. 「竹の台おたすけガイド」策定経緯と内容説明 3. ワークショップ（以下「WS」、丁目ごとに意見出し） ①災害時持ち出し品（個人）②一時避難場所の確認 ③一時避難場所ですること ④避難所ですること	44名
2	9月26日 (日)	1. 避難所とは（講義） 2. WS①避難所に必要なスペース②避難所のレイアウト（小中学校）	44名
3	11月8日 (日)	WS ①避難所の運営体制（総務・救護・情報・食料・物資班） ②各班ごとに、避難所ですることと事前準備品をリストアップ	46名
4	2016年 2月7日(日)	WS（ワールドカフェ方式） ～各自治会・管理組合で取り組むこと	42名
	合計		176名

### ③2016年度 地区防災計画策定と、それを用いた訓練の実施

「竹の台おたすけガイド」「避難所運営マニュアル」を併せて「竹の台地区防災計画」としました。8月には神戸市地域防災計画に規定されました。また、年度末には計画の冊子を作成し、各自治会・管理組合・関係団体に配布しました。

### 6. 竹の台一斉避難訓練

2016年11月13日（日）、策定した「竹の台地区防災計画」に基づき、竹の台で初めての一斉避難訓練を行いました。自治会・管理組合で決めた「一時避難場所」に集合し、避難所受け入れの指令が出てから避難所（竹の台小学校体育館）に向かうというものです。実施に際しては、自治会・管理組合の防災担当役員を対象に、竹の台小学校の会議室をお借りして、事前2回、事後1回のワークショップを行いました。

実施日	内 容	参加人数等
2016年 7月24日（日）	避難訓練に向けての準備Ⅰ～避難訓練の進め方説明 ワークショップ①各自の持ち物②団体内の周知方法	39名
9月25日（日）	避難訓練へ向けての準備Ⅱ～避難訓練の進め方説明 WS①団体内での進捗状況②これから団体で行うこと	39名
11月13日（日）	避難訓練	566名
2017年 2月5日（日）	一斉避難訓練・反省会 ①上手くいったところ②工夫したところ ③上手くいかなかったところ④来年度の訓練について	36名

以降、毎年1回のペースで、一斉避難訓練を実施しています。竹の台には指定避難所が2か所（竹の台小学校・西神中学校）あり、年代わりで交互に避難することにしました。平成30年度と令和元年度は「防災の日」（9月1日）に実施。平成30年度は、災害はいつ何時発生するかわからないということから、夜間の避難訓練も行いました。

また、避難終了後は、神戸市水道局垂水センターの協力のもと、竹の台公園に設置されている「大容量貯水槽」から応急給水スタンドを設置する訓練も行っています。

## 【竹の台地区一斉避難訓練実施状況】

	年 度	実施日	開始 時間	避難場所	参加団体数 (25 団体中)	参加人数 (人)
1	2016	11月13日(日)	9時	竹の台小学校	23	566
2	2017	11月5日(日)	9時	西神中学校	22	367
3	2018	9月1日(土)	18時	竹の台小学校	16	227
4	2019	9月1日(日)	9時	西神中学校	17	467
					合計	1,627

### 7. 西神ニュータウン6地区防コミ連絡会

西神中央地域には、6つの小学校区があり、それぞれの地区に防災福祉コミュニティがあります。2006年度、その6つの防コミが連絡会を作って、年度ごとに担当持ち回りで、「市民防災リーダー研修会」「合同防災訓練」「研修会」を行っています。また、年3～4回連絡会を開催し、各地区の活動等について情報交換を行い、切磋琢磨しています。

### 8. 市民救命士の養成

災害発生時には、家族や近隣で救助・救出・ケガの手当や救命処置をする必要に迫られます。竹の台5カ年計画「(3)1家族1名の市民救命士習得を実現する。」に基づき、下記のような場を設け、救急救命の普及に取り組んでいます。また、講習の指導にあたっては、竹の台防コミで神戸市消防局の「民間救命講習団体(FAST)」に登録し、住民有志から「救急インストラクター(指導者)」を養成しています。

- ①「市民救命士講習会」の開催～竹の台地域委員会、竹の台小学校学校開放委員会主催
- ②西神中学校1年生対象の「市民救命士講習会」
- ③竹の台小学校3・4年生の「市民救命士 入門コース」
- ④救急救命体験コーナーの設置～竹の台ふれあいまつり、竹の台児童館なつまつり、竹の台一斉避難訓練など

### 9. 子どもを通じた防災啓発活動

阪神・淡路大震災から25年が経過し、当時の体験をした人が住民の間でも少なくなってきました。竹の台防コミでは、若い世代に震災の教訓を引き継ぐため、(1)校区の学校園の避難訓練や防災教育活動の支援(2)児童館や青少年育成協議会・子ども会等と連携した子ども・親子向け防災イベントの開催を行っています。

#### (1) 小中学校・認定こども園と連携した防災活動

竹の台小学校・西神中学校・竹の台保育園等の避難訓練・防災学習を支援しています。

#### (2) 親子向け防災イベントの開催

防災の基本は「自助」であり、家庭での防災の取り組みが重要であることから、子どもや親子参加の防災プログラムを企画・運営しています。これらのプログラムは、防コミ単独ではなく、地域や近隣の学校園、児童館、青少年育成協議会、子ども会など、子どもに関連する機関や組織と連携して行っています。

#### ①竹の台親子ぼうさいキャンプ(2009年度～2014年度)

親子で小学校の体育館に泊まって避難所を体験し、日ごろの備えについて考えてもらうことを目的に実施しました。環境防災科がある兵庫県立舞子高校の協力のもと、高校生ボランティアにも参加してもらいました。第1回目のこの事業に参加した竹の台在住の生徒が中心になり、中学校の同級生と防災ジュニアチーム「ばんぶーふぁみりー」を設立、2010年からは彼らがリーダーとなって企画・運営を行いました。

親子ぼうさいキャンプのプログラム例は次の通りです。

1日目	①プールで水難事故防止訓練（着衣水泳） ②応急給水訓練（応急給水スタンド設置）～竹の台公園 ③防災ワークショップ～煙ハウス、防災ダック、防災クイズ作り ④サバイバルめしづくり、段ボールで寝床・就寝
2日目	①簡易トイレ組立て、備蓄倉庫の物品確認、AED ②防災ワークショップ～液状化体験、クロスロード、毛布担架

#### ②竹の台児童館なつまつり「親子防災コーナー」の運営（2015年度～2019年度）

竹の台児童館では毎年7月末「なつまつり」を行っており、幼児・児童やその保護者300名ほどが参加します。お化け屋敷やヨーヨーつりといったブースの一角に「ぼうさいコーナー」を設置し、「ぼうさいダック」「新聞紙を使った食器やスリッパづくり」「クロスロード」「AEDを使った心肺蘇生法」を親子で体験していただくことにより、防災への意識を高めてもらっています。また、スタッフとして近隣にある神戸高塚高校の生徒に参加してもらい、彼らの防災意識を高めることにも役立っています。

#### ③防災お菓子ポシェットづくり（2018年8月）

災害時、避難所で生活する子ども達は、今までと全く異なる生活環境の中、不安でいっぱいです。また、普段通りに遊べずストレスもたまります。そんな時、非常持ち出し袋の中に食べ慣れたお菓子やおもちゃがあると、ほっとします。阪神・淡路大震災のそんな経験を元に設立された一般財団法人「おいしい防災塾」から講師をお招きし、災害時に子ども達が避難所に持って行くための「お菓子ポシェットづくり」を行いました。

#### ④神戸市「くらしの防災ガイド」活用 親子向けワークショップ（2020年1・2月）

竹の台5カ年計画「家庭での防災計画策定」への取り組みです。防災ワークショップ参加者に聞くと、「くらしの防災ガイド」を持っている人は1割弱でした。そこで、これを活用して災害や防災について学び、家族で避難のタイミングや準備しておくもの・連絡方法などを決め、わが家の「マイ・タイムライン」を作成します。

### 10. 課題

以上、竹の台地区の防災の取り組みについて紹介してきました。その中で見えてきた課題が3つあります。

一つ目は大規模マンションの問題です。マンション住民の避難訓練の参加率は低く、また、マンション内でどんな防災計画があるのか地域ではわかりません。災害時には、自宅避難者や災害時要援護者の把握など、管理組合で取りまとめが必要なこともあることが予測されますが、住民の方々がそういった意識を持っておられるのか不安です。

二つ目は災害時要援護者への対応です。神戸市では条例を作り、地域で災害時要援護者対策に取り組む団体には名簿を渡すことができるとなっています。竹の台でも議論はしていますが、名簿を受け取った後のことが具体的に決まらないままです。現在は、自治会の班単位・向こう三軒両隣で要援護者の把握と対応をお願いしているところです。

三つ目は、帰宅困難者対策です。と言っても、竹の台の自宅に帰れない住民の子どもや高齢者への対応です。各家庭での防災計画を本気で考えていただくと、自ずと平常時の近隣や地域とのコミュニケーションが大切であると気づくと思います。今後もそのような働きかけを行なっていきたいと考えています。